

令和元年度 山口市新本庁舎の建設等に関する調査特別委員会行政視察報告

[参加委員]

委員長 野村幹男
副委員長 田中 勇
委員 泉 裕樹、藏成幹也、重見秀和、中島裕一、桜森順一、伊藤 斉
尾上頼子、山見敏雄、宮川英之

1 視察月日

令和2年1月16日（木）

2 視察先

・山口県長門市（人口：35,439人、面積：357.31平方キロメートル）

3 庁舎建設の概要

◇構造：鉄筋コンクリート造+木造（一部鉄骨造のハイブリット構造を採用）

5階建ての新庁舎棟については基礎免振構造

◇建築面積：1,962.35㎡（延べ床面積 7,202.26㎡）（最高高さ 22.996㎡）

◇事業費：約46.8億円（全体事業費）

※新庁舎棟（R1 竣工済部分）36.7億円

◇事業終了：新庁舎棟竣工 2019年8月末

全体竣工予定 2020年6月末（現在は駐車場整備中）

建物はエントランス棟と新庁舎棟の2棟で構成している。建物西側の県道沿いには市民広場を設け、北側に駐車場を整備する計画。庁舎入り口は北西側、南東側の2カ所に設けている。



新庁舎棟の建物構造は、木造とRC造のハイブリット構造を採用している。建物の両端をRC造、その中、挟まれた部分を木造で建築している。木造部分は建物の鉛直荷重——重さだけを負担する構造とし、地震力——地震が発生した場合などの水平力については両端にあるRC造に負担させるという構造。これによって柱のスパンを大きくとれるなどの効果を得ている。

木造によるポイントとしては①市民の誇りとなる木造空間の創出、②庁舎としての機能性・柔軟性・安全性の確保、③適材適所の地元産利用がある。木造でありながらロングスパンを可能とする合成梁を使用しており、これによって将来的な機構改編等にも柔軟に対応できるよう工夫している。使用木材は、使用箇所によって使い分けをしながら市内産の木材を使用している。

エントランス棟においてもハイブリット構造を採用しており、使用木材については市内製材所で加工可能な寸法の一般製材により建設をしている。

環境配慮型の庁舎として、年間を通じて安定した気温を保つ免震層をクールピットに活用し、外気を導入するなど長門市の気候をいかしている。上昇式のロールスクリーンでは下から上昇するスクリーンで直接的な日射は遮蔽しながら光を取り込み、照明の負荷を軽減している。

庁舎には、長門市の文化・技術とのコラボレーションした意匠を取り入れている。

建設に使用した木材の調達・加工においては、建築工事と切り離し、調達から納材まですべて別業務として発注した。その使用木材については、すべて長門市産の間伐材を利用しており、調達は平成28年度から3年をかけている。

長門市議会としては、長門市議会長門市庁舎改築調査特別委員会を設置し、庁舎建設に係る財政見通しなどの説明を受けながら、基本構想に係る意見をとりまとめた。ユニバーサルデザインの観点から人にやさしい庁舎というところに重点を置く、庁舎の規模と事業費については更なる縮減に努める、設計業者選定に当たっては地元企業が参加しやすく地元の意見が反映される方法を検討する、地元の素材・技術を活用するような構想にする、という4点を要望している。

その後においても、基本設計にあわせ、庁舎の規模と事業費については更なる縮減に努めること、庁舎建設工事や備品購入等については地元企業が参加しやすい発注方式を検討することの要望をまとめた。

議会フロアにおける映像設備・音響設備関係については、総務課で予算計上しながら仕様書作成、入札執行については議会事務局で対応した。その際には、過去に設置されていた議会改革特別委員会での新しい議会システム等に係る検討内容を盛り込んでいる。

議会として特段の協議項目として捉えていたものは、電子表決機能の採用について、常任委員会の生中継について、W i - F i 環境の整備についての3点であった。それぞれの協議結果は、従前どおり起立・挙手での表決とする、委員会の生中継については前向きに考えるが、新たな設備投資はせずに委員会の中継を実施する際には設備が整っている議場を使用する、使用しているタブレットがセルラーモデルということもあり、庁舎全体に整備するW i - F i 設備で十分対応可能であると判断し、議会フロアに議会として別途W i - F i 環境を整備する必要はないとの結論に至っている。

4 所感

鉄筋コンクリート造+木造(ハイブリット構造)の長門市新庁舎を訪れ、鉄筋コンクリートの建物外観から受ける印象と、建物内に入った際に受ける木の香りの印象と、二つ異なるものを感じ、木の温かみと香りがもたらす安心感、安定感を改めて認識しました。



木材をふんだんに使用した他には例を見ない庁舎であった一方で、林業の振興という観点は大切ではあるものの、8億円の事業費を増額して木造を取り入れることの是非については慎重に考える必要があると感じました。しかしながら、木材を先進的に利用することで補助金が活用できるという利点もあり、財源を確保することで実質的な建築費の縮減につなげるなど工夫も見られました。市議会からの要望事項でもありました建設費の縮減については、平成28年時では㎡当たり524,000円であったものを、最終的には㎡当たり494,000円まで縮減されています。

本庁舎整備に向けた一連の経緯の中で、人にやさしい整備の検討、事業費縮減に向けた取り組み、地元企業の参入、木材等地元資材の活用を大きな柱として取り組まれ、とりわけ地元産材を全面的に取り入れる構造での整備は大いに注目されるところです。建物内部においては、庁舎の構成が一目でわかる5層吹き抜け空間を設け、自然光を最大限にいかした照明が木材を照らし、その効果が発揮されていると感じました。大きな吹き抜け空間は、市民に好印象を与える大きな要因の一つであるとも感じますが、吹き抜けを作ることで執務面積が少なくなる、あるいは空調効率低下を招くことなども考えられ、本市においてその導入には様々な見地からさらに検討する余地があるとも感じました。

庁舎内の萩焼登板壁画や、萩焼特殊形状タイルと長門産土塗かき落仕上げの壁面などは、長門らしさの演出として市内産木材使用の中でトータルコーディネートされており、

親しみやすさとあたたかさを感じました。

長門市新庁舎において注目されるべき点として、免震構造と木造故に求められる耐火性もあります。地下1階部分にある免震に係る設備の配置場所を空調のクールピットとして活用するなど工夫も凝らしながら、5階建ての免震構造、さらに2時間耐火木造という安全性も確保されていました。

議会機能については、議員席と理事者席が対面する形となっており、議長席が相撲の行司のように配席されていました。山口市においては、会議に出席する理事者や議員の人数が多いことを考慮して、議長席からの視認性を大切に、全体を把握することが容易にできるようなレイアウトを慎重に検討する必要があると考えます。傍聴席はバリアフリーで、そのフロアは議場とほぼ同じ高さで整備されていました。議員と同じ目線の傍聴が可能という意味では開かれた議会という観点で評価もでき、大変参考になりました。議場には開放型の窓があり海が見える構造で、議場が明るく感じました。

庁舎全体としては、吹き抜けがあるオープンフロアで、キッズコーナーが設置できるスペースの余裕もあり、広々とした空間で利用しやすい庁舎という印象を受けました。現在駐車場が整備中であつたので玄関がわかりづらかったようにも感じましたが、



トイレの箇所や個数に不足感は感じられませんでした。本市とは規模に違いもありますが、子供用カートを利用して来庁される市民の方へのサービスに配慮することや、地域産業の振興への貢献に対する熱意、災害時に対応できるように広場と庁舎玄関スペースをつなげるなど仕様を工夫することについては、本市においても大いに参考とすべきと感じました。新たな備品を購入することなく旧庁舎で使用していたものを一部利用されている点については、事業費縮減の努力の結果とも受け止められ大変参考になりましたが、他市での視察において、備品を庁舎建設と同時に新調する事例として、耐用年数がある備品の更新は、そのタイミングが早いか遅いかの違いであり、一部を後年に更新する際には同じものが販売されていない可能性がある指摘に加え、備品を一斉に新調させることで新庁舎の供用開始時から統一した備品の取り扱いや文書の管理・保存システムの構築が可能となるメリットもあるとの御説明をいただきました。どちらの事例も共感する部分があり、その判断は慎重に行う必要があると考えます。

長門市庁舎は、地元産木材をふんだんに活用された、木のぬくもり、香りが随所で感じられる庁舎で、



ゆったりとした印象を与えてくれる庁舎でした。また、完成後においても市民の方からの評判は好評であるとのことであり、本市の庁舎建設においても、人口減少や広域的な行政推進などの課題も踏まえながら、本市の魅力や特長を取り入れた親しみのもてる新庁舎となるよう、さらに議論を深めていきたいと考えます。